

第3学年 保健体育科 学習指導案

1. 単元名 「体育理論～文化としてのスポーツ～」

2. 単元の目標

(1) 保健体育科の目標

- 体験を通して、パラリンピックスポーツを身近に感じ、興味を持つ。
- 障害の有無にかかわらず、スポーツを楽しむための工夫があることを理解する。
- スポーツが持つ魅力やその意義を考える。

(2) 汎用的スキル

- パラリンピックスポーツの体験を通してその魅力を感じ取り、スポーツが持つ魅力や意義、または共生社会への貢献の可能性について。考えを深めていくことができる。(メタ認知力)

(3) 態度・価値

- 障害の有無にかかわらず、スポーツに対する欲求や思いは共通であることを理解し、自分とは異なる人を受け入れる態度や、相手の気持ちへの共感や敬意、感謝の心を持つ態度を身につける。(他者に対する受容・共感・敬意)

3. 生徒の実態

1年時に体育理論において「スポーツの面白さ」を追求し、攻防のバランスとルール必要性を学んでいる。その理解は、授業において自分たちの現状に適したルール設定や、仲間は自分とは異なる他者であることを受けとめて共にプレイすることを考えることができることから活かされている。本単元では障がい者向けのスポーツであるというパラリンピックスポーツの概念を揺り動かし、スポーツの多様な関わり方やその価値について見つめ直し、さらにはスポーツと自分の関わり方を考える機会とする。

4. 単元について

①教科から見た特性

スポーツは、豊かな人生を営むために必要かつ重要な文化であり、人種や性、障害の違いを超えて、楽しむことができるものである。実際にパラリンピックスポーツを体験することによって、その面白さを実感するとともに障がい者向けのスポーツであるという狭義な捉え方を改め、スポーツの価値を問い直すことが期待できる。また、立場が異なる複数のパラリンピックスポーツと接することで、多角的に分析し理解を深めることができる。さらには、現代スポーツの価値についても考え、これから自分がどのように関わっていくのかを探っていく力をつけることができる。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

障害を持つ人とパラリンピックスポーツを共に楽しむことを考える機会とする。それは、単にボランティア的に参加するのではなく、多様な思いを持ちながらもスポーツに価値を見出し求めていることは共通であることを理解することを求める。そして、スポーツの実践を通して喜びや感動、苦しみを共感したり、互いに敬意を持ったりすることに有効であると考えられる。

5. 単元計画と資質・能力を育成する主な手立て (全6時間 本時2/6時間)

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (2時間)	〈シッティングバレーの体験〉 ・パラリンピックの発祥とその文化を知る。 ・シッティングバレーを行う。 ・健常者も混在して行われているスポーツであることを知り、スポーツの魅力を考える。	○他者に対する受容、共感、敬意	○協働が生まれやすい活動・ルールの設定 ○他者との学び合いの設定

第2次 (2時間)	〈ゴールボールの体験〉 ・アイマスクをしてゴールボールを行う。 ・視覚以外の感覚を使って楽しむことができることを確かめる。	○困難を乗り越える力	○解決したい、よりよくしたいという場の設定 ○他者との学び合いの設定
第3次 (2時間)	〈ガイドランナーの体験〉 ・視覚障害者と健常者の両方を立場でのランニングを行う。 ・互いに信頼することで楽しめることを理解する。	○他者に対する受容、共感、敬意	○子ども同士の信頼関係の構築 ○他者との学び合いの設定

6. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・シッティングバレーの面白さを知るとともに障害の有無に関係なく楽しめることを理解する。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 5分	○2回目の実践のため、動きにも慣れてきており、ルールの確認をする。 ・前は風船を使ったが、今回は柔らかいボールでやりたい。 ・チーム対抗戦をやろう。	◇今の自分たちに適したルールやより楽しむためのゲームの行い方を考えさせる。(協働が生まれやすい活動・ルールの設定：協働する力)
展開 30分	○シッティングバレーを行う。 6人～7人の男女混合チームを編成する。 6チームでリーグ戦を行う。 ・動かしたのコツがわかってきたから、ボールがつながるようになり面白くなってきた。 ・ブロックができると勝てそうだ。 ・チームでのポジションを考えよう。 ・サーブもどこを狙うべきか、考えなくては。 ○シッティングバレーの世界大会の映像を見る。 ・やっぱり迫力あるな。 ・あれ、立ち上がった人がいる。(驚く) ・足が不自由な人しか参加できないのでは？ ○実際の大会では、健常者も参加してもよいことになっていることを知る。	◇互いに声をかけ合い、連携をとりながら、ゲームを楽しませる。(試行錯誤が可能な場の設定：他者に対する受容・共感・敬意) ◆積極的に動いてボールを追いかけ、ゲームを楽しんでいる。 ◇障がい者向けで始まったシッティングバレーが、健常者も共にプレイするようになった経緯を考えさせる。(事前知識を持たせる：メタ認知力)
結末 15分	○どんなことを感じたか、意見交流する。 ・はじめはつまらなそうと思ったけど、やってみるとだんだん面白くなってきた。健常者も楽しめると思った。 ・足が不自由な人向けではなく、「立たない」というルールだと思えば誰でもできるスポーツだ。 ○スポーツが持つ力や魅力は何か、自分の考えを学習カードにまとめる。 ・障がい者も健常者も、その楽しさを分かち合えるもの。 ・障がい者用、健常者用と分けること自体が間違いでお互いが混ざってプレイするのは不思議ではない。	◇仲間の意見を聞きながら、自分が何を感じたかを見つめ直すことを促す。(他者との学び合いの設定：批判的思考力) ◇パラリンピックスポーツは何か、スポーツが持つ力や魅力は何かを考えさせる。(多様な視点から考える必要のあるテーマの設定：批判的思考力) ◆スポーツの持つ力や魅力は何かを考えて、その価値や意義つなげて記述している。